

【具体的な取り組みプラン】

2学部6学科に共通するキャリア教育では、1年次からの段階的なキャリア形成を目指している。特に重要な1年次前期の「キャリアデザイン」は少人数制の必修科目とし、キャリア形成に繋がる講義・グループワーク等を通じて「自分らしい生き方」について考えさせるとともに、卒業後の近い将来（就職、進学等）を見据えた大学4年間の過ごし方を計画させる。それを踏まえ、2年次の「キャリアデザイン実習」では、社会に出てから求められる各種能力（社会人基礎力、ソーシャルスキル等）について理解を深めるとともに、それらの基礎・基本を修得させる。さらに3年次の「キャリアデザイン実習」では、企業等でのインターンシップ（就業体験）およびグループワーク中心のキャリア関連プログラムを通じて、それぞれの目標に応じたキャリアアップを図る準備をさせる。

キャリア教育における基礎作りをふまえ、学科での専門的な知識の修得と、後掲の「学科等の取り組みプラン」の推進により、学生生活を通じて社会人基礎力と就職に必要な資質を鍛えていく。

取り組みプランの実施にあたっては、大学をとりまく社会・経済情勢、とりわけ就職環境の動向を敏感に察知し、タイムリーな内容となるよう常に見直しを図りながら推進し、毎年度末に、次年度に向けて取り組みプランをリニューアル作成する。

共通領域部の取り組み

現在、学生支援課（キャリア支援担当）・各学科・共通領域部がそれぞれ行っている「キャリア教育」に関連するものを大学全体の取り組みとして纏めていくための一方策として、共通領域部が行うべき今後の取り組み（案）を提示します。

【基礎力の向上のために】

・「キャリアデザイン」（1年次前期必修）の授業内において基礎学力調査（テスト）を実施し、現時点での基礎学力を学生自身に認識させる。

就職試験（筆記試験）に対応できる基礎学力を修得するための就職講座「夏期・冬期筆記試験対策講習」（8・12月）「SPI 模擬試験」（11月）が1年次から受講可能であることを周知させて、受講を強く勧める。

・本学の学生に適した、「基礎学力向上のためのテキスト」や「SPI・一般常識対策問題集」の作成を検討する。

・現在使用している「基礎演習・ディベートのためのテキスト」は平成9年に作成されたものであり、内容の見直しを中心として、今年度当初から改訂作業を進めている。特に、社会人基礎力として挙げられている3つの能力要素「前に踏み出す力」、「考え抜く力」、「チームで働く力」についても意識した内容を目指しており、来年度末に完成する予定である。

【共通領域部と各学科との連携】

・「キャリアデザイン」「基礎演習」「ディベート」は共通領域部の科目であり、共通領域部の専任教員が中心となって講義内容を決め、テキストの作成・改訂作業を行い、授業を担当してきた（非常勤を含む）。「基礎演習」「ディベート」に関しては各学科の先生方にもご協力を頂いている。しかし、2年前まで9名いた共通領域部教員は来年度以降は4名になる予定であり、また、共通領域部から他学科へ異動した先生方は年々専門科目の担当が増

えているために、共通領域部の教員だけで上記科目を担当することは困難になってきている。そこで上記の3科目について、従来通り主体は共通領域部であるが、共通領域部と各学科とで連携を図りつつ、徐々に各学科の先生にも担当して頂くことを期待している。特に「キャリアデザイン」は学科教員が担当することで、講義内容に学科の特色が出ると考えられる。

【共通領域部とキャリア支援担当との連携】

・「キャリアデザイン」では、自己理解の一つとして現時点（1年次前期）での基礎学力を学生自身に再確認させ、必要な学生には就職講座「夏期・冬期筆記試験対策講習」（8・12月）「SPI 模擬試験」（11月）の受講を強く勧める。

・「キャリアデザイン実習」（2年次後期選択）受講者を対象に、インターンシップの事前指導に関連する指導をキャリア支援担当と協力して実施する。また、3年次対象の就職講座への参加を強く勧める。

・「キャリアデザイン実習」（3年次後期選択）受講者を対象に、インターンシップの事前・事後指導に関連する指導をキャリア支援担当と協力して実施する。

学科の取り組み

【日本伝統文化学科】

1. 授業との関連において

以下の科目でプレゼンテーション能力を養わせる

「基礎演習」「ディベート」「演習」

以下の科目で日本語表現の基礎を習得させる。

「文章表現法」

以下の科目で表現力を養う

「日本語表現法」「口頭表現法」「日本語現代表現論」

以下の科目で現代に活かす実践と技能を学ぶ

文化マネジメントとメディア文化に関連する7科目

以下の科目で情報発信力を養う

文化情報技術論、文化情報技術演習、文化情報発信演習

資格取得を奨励する

中学校教諭（国語）、高校教諭（国語）、学芸員、日本語教員

2. 学科プロジェクトを活用し、社会人としての力を養う。

房総地域文化研究プロジェクト学生部会を支援する。

在校生と一緒に集まる場を設ける

地域の方から学ぶ

3. 以下の資格検定の取得を支援する。

漢検、地理検、ビジネス文書検定、情報処理能力検定、日本語能力検定、

旅程管理主任者

4. 卒業生と交流し、就職先の実際を学ぶ。

学科の卒業生を囲む会を実施する。

【国際言語文化学科】

1. 授業との関連において

以下の科目でプレゼンテーション能力を養わせる

1年生「基礎演習」「ディベート」

2年生「スピーチ」

3年生「3年次演習」

4年生「4年次演習」

以下の科目で授業時間内に面接の練習をする

「ビジネス英語」「上級英語会話」「中国語コミュニケーション」「韓国語コミュニケーション」など

英語科目の場合は英語での面接も可能。自己紹介など最低限のことは言えるように。

一般常識を学ばせるために以下の科目をできるだけ履修させる

「文章表現法」

「国際文化人論」

TOEIC 点数を上げるために TOEIC 関連の科目を履修させる

「資格英語演習」

2. 卒業生の活用

在校生と一緒に集まる場を設ける

社会のことを知る

外国語を忘れないように勉強会を設ける

易しい本を翻訳して出版まで持っていく

授業に呼んで体験談を話してもらう

刺激になる

単発でもよい

3. キャリア支援担当者との関わり

学生の情報提供（共有）

前期・後期1回ずつなど定期的に調査を実施

面接練習のために、どの企業も訊くような質問項目をもらう

就職講座を楽しみながら受けられるように

クイズ形式にする

懸賞品を出す

優秀者を表彰する

就職講座でDSやニンテンドーなどから出ている「常識問題」などのソフトを使う

ソフトにかかる費用は学科予算から出すことも可能では？

4. その他

学科が主催する「インターンシップ付き半期留学」への留学を奨励する

資格を取らせる

TOEIC / TOEFL / 英語検定 / 中国語検定 / 韓国語検定その他の語学資格

留学生には日本語検定（同じ1級でもより高い点数を）

語学以外の検定もどんどん受けさせる

【福祉心理学科】

基礎学力と専門知識に裏打ちされた社会人基礎力を身に付けることを目的として、学科として以下のような取り組みを行っている。

各授業における取り組み

テキストをしっかりと読ませる。

テキストに書かれている漢字等が読めない。読めないだけでなく、意味の理解も難しい学生が多くなっている。まず重要かつ必要な箇所はしっかりと読ませる。

ノートを取らせる。

黒板に書かれていること、パワーポイント等で提示されたことをノートに書かせる。

考えさせる。

授業で扱ったトピックや新聞記事を読んで考えさせ、「自分の考え」というものを持たせる。

自分の考えをまとめ、発表させる。

自分の考えを文章にまとめることによって記述力をつけ、それを発表させることによって自己表現力を養う。

グループディスカッションの方法を身に付けさせる。

あるテーマについてグループでディスカッションを行い、グループの意見をまとめ、全体に向けて発表させることによってプレゼンテーションの力を養う。

各国家資格・教員免許状取得に向けての取り組み

前期計 30 コマ、学科専任教員による特別支援講座を開いている。

後期は千葉県社会福祉士会委託の「キャリアアップ特別支援講座」を開いている。

3 年次の「福祉心理学演習」、4 年次の「社会福祉学研究」で国家試験受験希望者向けの演習を行っている。

国家試験のための自己学習の進め方などを適宜アドバイスしている。

社会福祉士・精神保健福祉士の模擬試験の受験料を 3 年生に関しては無料にする計画を立て、予算申請中である。それによって自分自身の力を客観的に把握し、資格取得に向けて更なる努力を促す。

教員免許状取得に関しては、採用試験と同様の試験の実施や試験内容の確認プリントを配布している。また、学生から希望があった場合には、勉強会のサポートを行っている。

その他

学科の資料室を可能な限り開放し、随時いろいろな相談に応じている。

就職の試験や面接などの情報を交換し、必要があれば面接の練習を行っている。

【臨床心理学科】

・心理学に関する様々な科目において、自分を見つめるための機会や方法を提供し、その実践を行う。また、ソーシャル・スキルおよび、ソーシャル・スキルトレーニングの理論や実践方法を学び、実践する。

・臨床心理学、産業心理学、心理療法概論などの科目において、ストレス科学についての専門的な知識や自らの対処方法、援助方法などの知識 / 技能を身につける。

・産業心理学などの科目において、キャリア形成や職場への適応に関する心理学の知識 / 技能 / 援助方法を身につける。

- ・演習科目、卒業論文などの科目において、自らテーマを見つけ、問題それについての情報の収集、問題解決のための計画・実践能力、結果のプレゼンテーション能力を高める。
- ・演習科目、実習科目、グループアプローチ特講、卒業研究などの科目において、チームで働くための、コミュニケーション能力や、傾聴の能力を高める。
- ・授業科目以外では、構成的グループ・エンカウンターの実施や、ボランティアの紹介などを行っている。
- ・特定非営利活動法人 日本教育カウンセラー協会認定、ピアヘルパー資格試験の全員受験（2年次）

【健康・スポーツ心理学科】

（1）学科の方針

担任はキャリア担当であるとの認識を持って、学生の進路に応じたアドバイス、サポート等を4年間を通じて行う。

学科教員が就活事情について理解するとともに、学科と学生支援課（キャリア支援担当）との定期的な情報交換を積極的に行う。

（2）具体的プログラム

実施の方針

主として、オフカリキュラムとして実施する。

個人カードを作成し（させて）報告会などを実施し、定期的にチェックすることで学生の個人的な努力を促し、きめ細かな指導を行う。

1．生き方について

- 1）健スポ教員が直接担当する「キャリアデザイン」（1年次必修）
- 2）課題図書の提示
- 3）特別講演会

2．マナー・一般常識、コミュニケーション能力

健康・スポーツ心理学科の授業全体を通じての課題とする。

3．就活基礎学力

- 1）1年次から「就職模擬試験」および「集中講習」への参加の奨励
- 2）SPI、一般常識、一般教養、大学院入試英語問題の定期的配布 自習を促す
- 3）勉強会の開催（学生アシスタント他の活用）

4．資格取得

- 1）健康・スポーツ・レクリエーション資格取得の奨励
- 2）資格取得方法のガイダンス

【観光文化学科】

「多文化理解に基づく観光デザイン力と社会人基礎力の修得」を目標としている本学科では、世に出て役立つ人材の養成のために下記のようなプログラムを準備している。

学外で実施する1年次オリエンテーション特別授業から始まる4年間に、海外での実地研修、関連業界におけるインターンシップ、学生自身が企画実施するフィールドワーク、さまざまな学外研修等を用意し、社会人との接触の機会を増やし、学生の社会人基礎力全般

の鍛錬に努める。

学科の就職委員を共通領域部およびキャリア支援担当者との連絡窓口とし、担任との連携により学生一人ひとりの成長を把握しつつ、出口へと導きたい。

個別の能力の開発・養成については、以下のような特定の取組みを重視する。

1. 授業を通じて

プレゼンテーションと討論の能力を養う。

1年次「基礎演習」「ディベート」「観光文化研究」

2年次「観光社会学」「観光メディア論」

3年次「観光デザイン演習」「旅の文学論」

4年次「卒業研究」

コミュニケーションの力を開発する

つぎの科目でアンケート調査作業などを通じ世の中の人々と接する機会を与え、説明・依頼・お礼をきちんとした日本語を使ってできるように練習する。

・「フィールドワーク入門」「コミュニケーション特講」

・「社会調査入門」「社会調査実習」

・「観光英語入門」で英語での自己紹介、日本文化の説明、外国人からの日本に関する質問に答えられるように練習する。

一般常識を学ばせる

・「文章表現法」「国際社会学」「宗教社会学」の履修を推奨する。

・e-ラーニングを導入し、基礎知識をクイズ形式で学ばせる。

就労意識を高める

・「キャリアデザイン」の履修を推奨する。

・「インターンシップ」の履修を推奨する。1年次から学科の科目、3年次以降に共通領域の科目がある。

2. 社会人の活用

広く社会のようすを知らせるとともに社会活動への刺激を与える。

観光関連業界から学外講師を招き話を聞く。

地元八千代市のボランティア活動などに参加をすすめる。

3. キャリア支援担当者との協力

学生に関する情報を共有する。

定期的に情報交換することが望ましい。

就職委員は、企業の面接担当者がよく聞く質問をキャリア支援担当からもらい学科の学生の練習に利用する。

4. その他

社会的訓練への導入を行う。

・入学時オリエンテーション特別授業（4月）で、東京または横浜のホテルに宿泊研修（1泊）する。

・1年次前期海外研修（6月）で、グアム島リゾートに宿泊研修（3泊4日）する。資格取得を奨励する。

・社会調査士／総合・国内旅行業務取扱管理者／旅程管理者／観光英語検定／世界遺産検定／その他

- ・ TOEIC / TOEFL / 英語検定 / 中国語検定 / 韓国語検定 / その他
- ・ 留学生には日本語能力試験を課す（より高い点数を目指す）。
- ・ 観光・旅行業関連の検定はもとより幅広い資格の取得を推奨する。

キャリア支援担当の取り組み

1 就職講座

3年次に実施する就職講座は、就活本番に向けて学生が身につけるべき多くの内容を、理解し役立てることができるように計画的なラインナップで実施しているが、経済状況・採用市場動向にあわせて、内容を毎年見直している。学生からは、「面接で思い出して使える内容があった」「最初の頃は理解できなかったことも、徐々に理解できるようになった」「積極的に参加したほうが良い」などの感想が述べられている。

従来以上に参加しやすい時間帯に設定し、キャンパス全体として「キャリアの時間」としての意識付けができるように、実施日時の見直しを関係部署と調整を図りつつ進める。

2 キャリアアップ特別講座

学生が卒業後充実した人生を生きるための力を養う一助として、正規の授業外に、大学が支援して安価な費用で資格取得などにチャレンジできるよう実施している。真に役立つ講座を目指して、内容や費用対効果の観点から随時見直しを図っていききたい。

日本語能力試験（1級）対策特別講座

社会福祉士・精神保健福祉士国家試験直前対策特別講座

保育士試験対策特別講座

臨床心理系大学院進学対策特別講座

旅行業務取扱管理者国家試験対策特別講座

公務員試験対策特別講座

ホームヘルパー養成講座

教員採用試験対策講座

3 履歴書・エントリーシートの早期完成指導 / 個別面談の早期実施 : (キャリアカレッジ)

「履歴書・エントリーシート」が完成していないことが、学生がスムーズに就活に乗り出していくことへの大きな障害となっている。こうした障害を早期に取り除き、汎用性のある形で完成させるための添削指導を既に開始している。次年度は、従来夏休み明けに行なっていた就職課実践講座（就勝応援ブック・キャリア支援登録カード配布）を夏休み前に実施し、学生全員との個別面談を夏休み中に実施、会社説明会・エントリーが本格化する10月までには履歴書・エントリーシートを完成するように指導していく。

「全員が進路確定して卒業」の目標達成を目指し取り組む。

4 キャリア支援ロードマップ

入学から卒業までのキャリア支援の流れを「ロードマップ」として示し、現在の自分の立ち位置を一目で把握し、「今、何をすべきか」を理解できるようにした。入学式（保護者）、新入生オリエンテーション、就勝応援ブック（3年生）などさまざまな機会をとらえて示していく。

5 TSU 就勝倶楽部

学年を超えた学生相互の就職支援活動（内定を獲得した先輩の体験談を聞く茶話会の実

施、グループディスカッションなど面接対策の練習など)を行なうサポートグループの形成を支援し、活動の機会と場所を提供していく。

6 社会人基礎力・基礎学力判定のための試験(SPIなど)を実施

新入生全員(初年度は2年生も)を対象に社会人基礎力・基礎学力判定のための試験を実施し、弱い部分を学生自身が把握して大学生活を通じて成長していく努力を促す。同時に学生の基礎データとして「共通領域部・学科・キャリア支援担当」が共有して学生支援に活用する。

そして3年次の就職講座におけるSPI模擬テストで、成長の度合いを把握し、基礎学力の不足が発見されれば、夏休み・冬休みに実施する特訓講習で弱点を補強するなど、就活本番に向けての筆記試験・面接などの対策に役立てる。

・ さまざまな連携

1 保護者/OB

保護者懇談会・OB会総会などあらゆる機会に、本学のキャリア支援について説明し協力を依頼する。保護者のご支援は特に重要であり、学生に対して「放任」も大いに問題であるが、「干渉し過ぎ」により深刻なストレスを学生に与えることもあることを、ご理解頂きキャリア支援にご協力頂くように努めていく。また、不景気による求人数の減少を少しでも補っていくために、保護者/OBからの求人案件の紹介にも力を入れる。

2 課外活動

各学科の「具体的取り組みプラン」にもあるように、ボランティア活動などを通じて地域社会や多様な人々と触れ合うことは、学生の社会人基礎力育成に大きな効果が期待される。自治体などと連携し新しい取り組み案件を積極的に開拓していく。

3 十条台キャンパス サテライト

就活のさまざまな局面で、学生が相互のキャンパスをサテライト的に活用できるよう、情報共有と運営体制整備を進めていきたい。

求人票データベースの相互活用を既に実施しており、本年度、八千代キャンパスには少ない幼稚園の求人を十条台キャンパスの求人から発見し、内定を獲得した事例もでてい

4 公的機関(ハローワークなど)

ハローワークなどでは求人案件の紹介以外に、履歴書の書き方講座や面接対策講座、あるいはビジネスマナー・エチケット講座、メーカー講座など多彩な就活支援をおこなっており、大学生も自由に利用できるため、学生の必要に応じて紹介する。

以上